

**被災地の子どもと教職員へ、学校と教育の復興へ、全国から支援と激励を！**

## **東日本大震災支援ニュース**

**第3号**

2011年3月29日(火)

東日本大震災対策本部（全教、日高教、全国私教連）

### **全教の現地対策本部を仙台にたちあげへ**

第2次先遣隊（杉浦副委員長、米田中央執行委員、佐古田日高教副委員長）は、全労連の物資搬送と現地事務所確立のために3月23日から3月25日まで宮城・福島で活動を行ってきました。

これまでの準備を経て、全教・東日本大震災対策本部は、3月30日から、第1次派遣隊として全教・日高教・全教共済から5人を仙台に派遣します。派遣隊は、宮城高教組会議室内に大震災支援現地対策本部を設置し活動を開始します。全労連なども、現地での支援活動にむけた準備がすすんでおり、現地組織との調整、全国との調整など、被災地支援・復興にむけた活動が大きく前進することが期待されています。

### **被災地への救援物資の共同発送が今週から始まります**

道路事情やガソリン不足で、救援物資が被災地まで届けられない状況がありました。

全労連は、福島、宮城、岩手の県労連や民主団体と共同し、物資を受け入れ、被災者に届ける態勢をつくる準備をすすめてきましたが、いよいよ今週から全国的な共同発送ができるようになります。

具体的な方法については、本日、各組織に全教より要請文書が発出されます。また、全教ホームページにも掲載されますが、被災地が必要とする物が確実に届けられ、被災者を励ますことになるようご注意ください。



津波がなだれ込んだ教室（名取市）

### **救援ボランティアの登録を広げ、派遣の準備をすすめよう**

救援ボランティアを被災地で受け入れる態勢を全労連はすすめています。準備ができ次第、岩手、宮城への派遣を開始します。派遣のためのバスを運行し、救援物資の受け入れと整理、被災地への届けと要望の聞き取りなどにとりくみ、原則として最低4日程度（3泊）の活動をお願いすることになります。

すでに、全教の要請にこたえて、ボランティアの登録が全教に届いていますが、救援と復興のとりくみは長期に及ぶものです。積極的な登録をお願いします。

### **救援カンパは、全教への直送分だけで1千万円を超える**

**全教は、子どもと教職員を支え、学校と教育の支援・復興などのために活用します**

全教本部には、全国の職場や個人、各組織から心のこもった救援カンパが届いています。全教に直送されてきた分だけでも、すでに1000万円を超えています。そのほか、各都道府県や全国私教連に届けられた分も含め、大きく広がっています。全教は、この救援カンパを、被災した子どもと教職員を支え、学校と教育を支援し復興するために活用するとともに、全労連とともに被災者の救援のために役立てます。

# 宮城県沿岸部の津波で被災した学校を訪問し激励

## — 23日から、宮城高教組と県教組が合同で —

両教組は、合同で、津波被害で大きな被害を受け、多くが避難所となっている沿岸部の11市町、約30校を訪問し、実情を聞き激励しています。学校と児童・生徒、教職員の被災の状況、学校再開への課題、人事異動の問題点などがいっそう明らかになりました。今後、この訪問の報告を掲載します。被災地の実情をふまえ、全国的な支援、救援カンパのとりくみをいっそう強めていきましょう。

### 気仙沼市内の学校 (3月26日)

#### A 県立高校より

地震があった日は採点日だったので、生徒は一人もいませんでした。海からはだいぶ離れた山沿いのところであるが、津波は川を遡ってきた。25日(金)の夕方、ようやく電気が通るようになった。水はまだ、あと10日ぐらいかかるようだ。学校は、遺体安置所になっており、自衛隊が300人つめています。ガソリンがないので校長はずっと泊まっている。

生徒の安否確認は、ガソリンがなく大変だったが、1、2年生は全員無事。3年生で1人、お母さんと津波から走って逃げた生徒が亡くなった。教職員では10人以上、家族や親族を亡くした方がいる。自宅が流されたり、焼失した教職員もいる。

地元の会社が流されてなくなっているの、内定取り消しの連絡を受けている。これから増えるのではないか。また、学校の修繕も、地元の会社が流されたり、焼失したりしていてまもらない。

レールも飛ばされ、駅も橋もなくなった。4月21日学校再開と県教委は言っているが、生徒の8割が気仙沼線を利用しているので、生徒の足を確保してくれなければ無理。県や市がスクールバスなどを出してほしい。生徒達は今、避難所で生きるの、精いっぱい。生徒達の生活の復元を早くしてもらいたい。

#### B 中学校より

学校は無傷だったので、市内では一番大きい避難所になっている。現在700~800人いて、多い時は2000名いた。物資については、自衛隊の支援があるので、今のところ間に合っているが、食事は1日に2度。生徒については、1、2年生は安否確認全員できたが、卒業生が1名死亡。2名行方不明。家族親戚関係を亡くした教職員2名。家屋流失したり、アパートに住めないなど被災した教職員5名。半分の生徒が避難せざるをえない。先日登校した時、ショックを受けていて、見たことのない顔をしていた生徒がたくさんいた。学校に子どもたちが何とかして集まるようにしたい。

異動に関して、兼務については、アパートの契約が3月で切れ、1、2ヶ月の延長を大家が認めない。そういう現実的な問題があり難しい。

#### C 小学校

昨年8月から校舎の改修(耐震工事)を行っており、校舎は無事だった。児童は433名、全員無事。ただ家がなくなったり、家族親族が亡くなったなど被災した児童が100名ぐらいはいる。児童の引渡しに4日かかった。その間ずっと教員は学校につめていた。身内を亡くした教職員3名以上。家をなくした教職員は5、6名できない。自宅にいた教員が1名行方不明になった。

22、23、24日は学校を再開した。避難所になっており、体育館、管理棟を開放している。90名ぐらいの方が生活している。学校再開するために、避難している方の生活の場所を確保してほしい。教室は使えるがそれ以外は、避難をしている方が使っている。子どものケアのために人手がほしい。

#### 管理職の先生からの声

自分は今度異動になるが、今度来る人は本人も身内を亡くし職員室が浸水し、パソコンが使えない状態。そういう学校を残して異動することになる。ここに異動してきて地域の様子も分からず、避難所の対応を任されるのは大変ではないか。